

## MEET

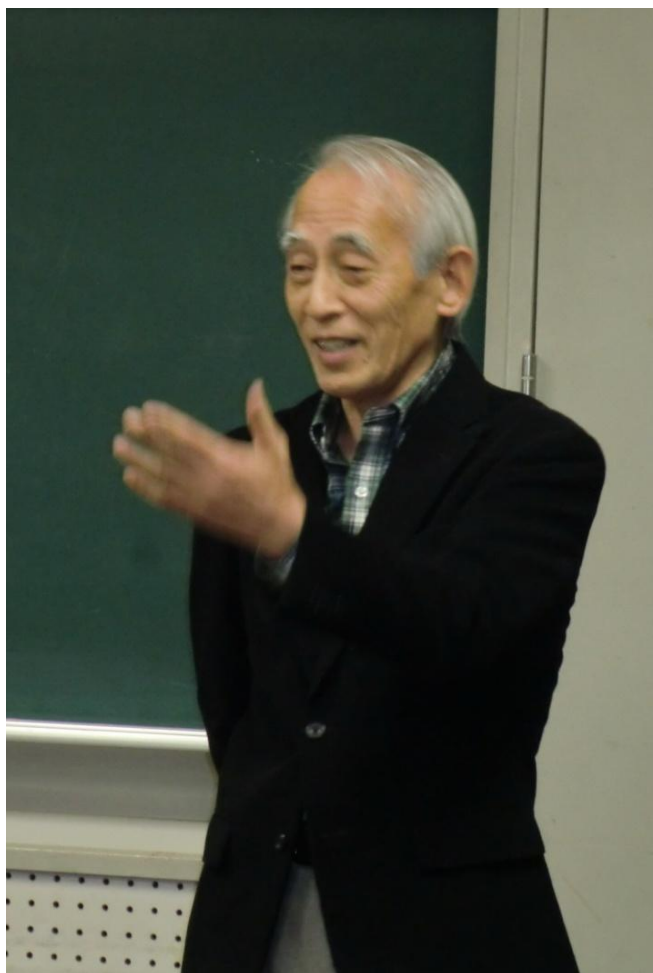
Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト

平成25年(2013年)3月1日(金)

第65回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立公民館と共催で1月17日(木)に開催しました。

井上博義様には「自然との対峙」と題して、フィールドにレンズを向けて、見えて来る無限の被写体、そこから自然、社会、経済、家庭の環境が垣間見えることを話していただきました。プロの写真家としては、特に自然環境の変化が気にかかるようで、25年ほど前と比べ悪化への頻度は、鈍化しているようだが決してストップはしていない事例を挙げられました。



自然環境について考える機会となりました。今のカメラはデジタルが主流になり、ファインダーを通して風景を見ることはほとんどなくなりましたが、小さな窓から見た景色は、液晶画面より

も情緒が深いものだったことも懐かしく思い出しました。

紹介していただいた森林の風景では森林の抱える課題や、業として引き継ぐための後継者問題、河川で普通に生息するようになったヌートリアでは

### 参加者の感想

1

たくさんの素晴らしい作品を見せていただきながら、貴重なお話を聴かせていただき、あらためて

自然に対しての人間の影響、棚田の風景や身近な小泉川など長岡京市の自然も多く紹介され、写真の持つ伝達力も感じました。

技術がありませんので、あのような写真は撮ることはかないませんが、当方も東京方面に行く際にはE席を取りたいと思います。

## 2

プロの方のすばらしい写真をたくさん見せていただきました。嵐山の小水力発電、森林の役目、床柱に節の無い理由、カワセミ、かやネズミ、セキレイなど動物の表情、海藻の酸素づくりなど自然にまつわるいろいろ面白い話を聞かせていただきました。井上さんの自然

への思い入れが感じられました

また「自然の風景がなくなつた」「(住宅の増築に関連して)山肌にまで入っていくことの人間の愚かさ」など、自然が壊れていくことへの嘆き(?)は身に染みしました。

最後に私たちの自然への取り組みについては「とりあえず外へ一歩出てみる。そうすればいろいろなものが見えてくる。」と言われたのが印象に残りました。

出来れば、チラシに書かれている「自然は孫子から預かっている」ということについてもう少し詳しくお聞きしたかったです。

## 3

宮津市上瀬屋の里山や棚

田の貴重な風景写真など、流石にプロの写真家と感心させられる見事な写真を沢山見せていただいて目の保養になりました。西山や、小畑川・犬川・小泉川などのお話は、少し私どもの視点とは違う感じを受けましたが、多様な見方として参考になりました。

野鳥についてもカメラを通しての観察の鋭さがあるようですね。

## 4

カメラアングルの中に極力人工物を入れない芸術家の感性が、自然環境を大切に守りたい思い、行動の元にあることを感じました。一方、祭りはカメラマンを惹きつけてやまないものがあるのでしょうか。

